

	秋田大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学資源学部（第1年次:460 第3年次:12） 大学院工学資源学研究科（M:167 D:16）
沿 革	<p>明治43（1910）年 秋田鉱山専門学校創立</p> <p>昭和24（1949）年 新制秋田大学鉱山学部設置</p> <p>昭和40（1965）年 大学院鉱山学研究科修士課程設置</p> <p>平成6（1994）年 大学院鉱山学研究科修士課程を廃止し、大学院鉱山学研究科博士前期課程・後期課程に再編</p> <p>平成10（1998）年 工学資源学部設置</p> <p>平成14（2002）年 大学院工学資源学研究科博士前期課程・後期課程設置</p>
設置目的等	<p>秋田大学工学資源学部・工学資源学研究科の母体の一つである秋田鉱山専門学校は、工業に従事する者に高等の学術、技芸を教授することを目的として明治43年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、秋田鉱山専門学校は、秋田大学鉱山学部として承継された。</p> <p>昭和40年に、鉱山学、ならびにこれに関連する専攻分野について、理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的に、大学院鉱山学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成6年に、幅広い学識を有し、かつ積極的な開発意欲を持つ国際性豊かな高度技術者・研究者を養成するとともに、社会人技術者のリフレッシュ教育及び高度科学技術による地域企業の振興に貢献することを目的に大学院鉱山学研究科修士課程を廃止し、大学院鉱山学研究科博士前期課程・後期課程に再編された。</p> <p>平成10年に、地球環境と調和のとれた人間性豊かな社会の発展に寄与するとともに、資源学・工学に関する深い理解を通して、広く社会に貢献できる技術者及び研究者を養成することを目的に、工学資源学部が設置された。</p> <p>平成14年に、人間社会が持続的に発展するための総合・学際的かつ先端的科学技術の更なる展開を図り、優れた人格と国際性を有する高度な能力を持つ技術者、研究者を養成することを目的に、大学院工学資源学研究科博士前期課程・後期課程設置が設置された。</p>

強みや特色、
社会的な役割

秋田大学においては、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念とともに、地球的な資源・環境・エネルギー問題の解決を目指しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 秋田県をはじめとする周辺地域の理工学教育の機会均等に寄与するとともに、資源、素材、高齢者対応、地域防災などに関連する高度な技術者等の育成の役割を果たす。また、国際的視野に立って上記理工学分野の課題を解決する方法を提案し、それらを検証する能力を有し、高度で先駆的な技術開発・研究能力を有する人材育成の役割を果たす。
- レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラムなどの特色ある教育や国際的な通用性のある認定プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。他方、理学分野の基礎教育を強化し、これまでの理数学生育成支援プログラムや学生自主プロジェクトなどの実践教育の実績を生かし、産学連携推進協議会を核とする地域と協力し、地域を活性化できる新しいものづくり・ことづくりのできる人材を育成する。
- 創立以来の実績のある資源探査、製錬、リサイクル技術開発の実績を踏まえて、地球・資源システム工学に関する国際的研究を推進する。また、高齢者対応の研究、素材、環境浄化技術の開発、ロケットの宇宙輸送機・構造物に関する開発・研究、津波災害及び雪害に関する地域防災の研究を推進し、地域活性化の核となる。
- アーバンマインアカデミー事業などの継承や産学連携推進協議会を通じた地元企業との連携強化によるインターンシップの充実・地元企業の研修の場となるなど、これまでの実績を生かした地域貢献により地域活性化の核となる。
- 国立大学唯一の通信教育課程を発展させ、社会のニーズに応えた専門的な資格や単位の取得ができる通信制の教育課程を構築するなど、社会人の学び直しを推進する。